



2025年1月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は12月に入り連日30度を超える日が続いており、初夏の不安定な天候と比べると安定した夏空になっています。

既に森林火災が各地で発生しており、昨年12月は前年に比べて20%以上増えていました。今年も3月前半までは大規模な森林火災に注意が必要です。

銅価格は昨年5月に5.0ドルを超えて過去最高値になりましたが、6月以降は4.3-4.5ドル台になり、ここ2ヶ月は4.0ドル台で落ち着いています。

今年チリ政府の銅鉱山からのロイヤリティー収入が昨年より減収する見込みで、経済成長率は厳しい予想になっています。

為替はドルに対して990ペソ台へペソ安ドル高が更に進行しており、南米諸国の中ではチリの景気、政権に対しては厳しい評価をしています。

チリ中央銀行はインフレ率も上昇しており、昨年12月に公定歩合を5%へ0.25%の引き下げを実施しました。

2. 世界市況

中近東市場の需要は引き続き強く世界的な製材供給不足も続いており、チリ材に依存する市況は1年を越えています。今後も欧州材の供給が増える市況は厳しく、今年前半もチリサプライヤーの中近東市場に対する販売プライオリティーは続きそうです。韓国市場は国内政権が揺らいでおり、今後の韓国政治、経済に影響が出てくるので、注意してみていく必要があります。

今月20日からトランプ政権になりますが、チリサプライヤーが販売している中国やメキシコのKDビジネスは今後の関税問題により木材市況に大きな影響が出る可能性があります。今年昨年以上に世界的な丸太、製材の供給がタイトになる市況が高く、今後の世界市況によっては、日本市場にも影響が出ることは避けられません。

日本の梱包材市場は今年もラジアータパイン製材と国産杉製材との競合に変わりはなく、チリ製材の存在がどこまで市場に影響を出せるか見ていくことになります。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2024年12月配船（5番船）は川崎港へ1月20日頃に入港予定です。本船も前回船同様に販売数量は3万m³の満船にはならず、約90%の積載になります。

次回バルク配船は3月前半に現地を出港して4月前半から川崎、名古屋、大阪に寄港して、5月の連休前までに終える予定です。

今回船が今年の1番船となり、残りは4配船（5月、7月、9月、11月）になります。また1月よりアラウコは予定通りコンテナ配船も並行して販売を始めています。

b) 梱包市況

12月の梱包需要は10-11月より木箱、矢板、パレット需要が年末に向けて静かでした。年末年始は9連休になる企業が多く、年明けに連休もあり、1月前半は静かな市況になりそうです。1月後半からの第一四半期の輸出梱包材の動きを見ながら、各社は昨年入荷した3番船から4番船へ販売を移行しなから、5番船入荷を待つ販売になります。3月の年度末需要が出てくる市況になると、4番船から5番船への販売がスムーズに移行して、4月に入荷する1番船に向けて在庫にタイト感が出る可能性もあります。

昨年後半から-3000円の値上げを浸透してきた市況ですが、関西エリアは競合も多くあり、まだ値上げが浸透していません。為替も引き続き円安ドル高傾向は変わらず、現地価格も据え置きが継続しており、各社のコストは高い状態が続いています。

チリサプライヤーはアジア向け、日本向けの収益が世界市場で他国より低く、サプライヤーによっては、日本向けサイズ、数量に制限をする生産、販売が出始めています、現行の為替水準ではチリサプライヤーが価格を値上げすることは困難ですので、世界市場の中では、日本向けの生産、販売数量を増やすことは厳しい生産体制です。

チリ製材と競合する国産杉製材の丸太、製材コストは上昇中であり、2-3月にかけて3000円の値上げを予定しています。

アラウコ乾燥材の販売はチリについては昨年で販売を終了しており、アルゼンチンのタエダパイン販売のみになりましたので、今月より乾燥材市況は終了させていただきます。今後、新しい情報がありましたら、随時、載せていく予定です。

以 上